

<推薦文>ペットフードの普及と安全対策

鈴木 裕介

□推薦

指導教員 三原 容子

2011年度ゼミの4年生はわずか二人だった。4年生の春、二人とも食べ物を卒論のテーマとして扱いたいと言ってきた。

私のゼミでは卒論のテーマについて、2年次の希望者募集段階からすでに、「歴史分野に限らない。真剣に楽しく取り組み、達成感を味わえるようなテーマに出会うことが大切である。」と呼びかけている。もちろん、食べ物でも飲み物でも何でもまったくかまわない。しかし、山形の食、なかでも「どんだん焼き」について書きたいという鈴木さんの場合に限って、私はテーマ変更を強く勧めた。それはなぜだったのか。ちなみに「どんだん焼き」とは、山形市を中心に主に村山地方で売られている、割り箸に巻き付けたお好み焼きのような食べ物である。

就職活動に相当の時間やエネルギーをとられる時期である。限られた時間で卒論の作成を進めなければならない。「どんだん焼き」に関する先行研究や参考文献は皆無に近い。材料を集めるには、関係者からの聴き取り調査や食べ歩き調査などの積極的な行動、あるいはその他の方法を工夫することが必要だろうと私は考えた。着実に慎重に事を進めていくタイプの彼には向いていない、はっきり言えば無理だと判断したのである。

もっと研究しやすく面白そうなテーマをいくつか提案しても良いとまで話した。私が列挙したテーマから興味のあるテーマを選んだ先輩もいたからである。しかし彼は自分で決めたいと言った。しばらく待っていたところ、彼自身が持ってきたテーマが、今回の卒論で取り上げた「ペットフード」だった。小さい頃から実家で猫を飼ってきたこともあって、関心を持ったようだ。

犬や猫を飼ったことのない私には新鮮な話題だった。小さい頃に近所で飼われていた犬や猫は、味噌汁を掛けたご飯や、鰹節や煮干しをまぶしたご飯を与えられていた。ペットフードのコマーシャルを見て「なんて贅沢なことをするのだろう！」と驚いたものである。いつのまにかこのスーパーマーケットにもペットフード売り場が設けられ、ペット専用の食べ物を購入するのが当たり前の時代になっていた。

ペットフードの歴史は浅い。おそらく参考文献の数が多すぎることはないだろう。参考文献が皆無ということもないだろう。やりがいがあって、やりようのある、良いテーマを見つけたなあと思った。私のようなペットの飼育に無縁の者が読んでもよくわかる論文を書いてもらいたいと励ました。

こうして、「ペットフードの普及と安全対策」について論文を作成することになったのである。いわゆる「ペットフード安全法」に関連する農林水産省サイトの情報を収集したり、CiNii（サイニー）等で検索して見つけた獣医学の論文を大学図書館の複写サービスで取り寄せたりして、彼は確実に一歩ずつ知識を積み上げていったようである。その姿勢と努力を高く買いたい。

今やペットは家族の一員である。健康に長生きしてもらえるよう、種類や年齢に合っていて、かつ安全に配慮したペットフードが必要とされるようになってきたらしい。昔のペットは、せいぜいのところ、ネギや玉ねぎを避けてもらうくらいの配慮しかしてもらえなかったということだ。しかしながら、彼が書いているように、「ペットを飼育しペットフードを購入する程の経済力がある国は世界でも限られる」。少々複雑な気持ちがある。

ゼミ生の残る一人は「日本のカレー」をテーマに選んだ。「どんだん焼き」に比べたら文献資料が見つかりやすいかもしれないが、それでも難しいテーマである。例年と同じく、全員の卒論を三原研究室のサイトで公開しているので、よろしければご覧いただきたい。